

商いの新しいものさし

第88回

（株）商い創造研究所
代表取締役

松本 大地

ノスタルジック・モダンな街の居場所



魅惑の世界をつくるパッサージュ

パリには歴史と秘密が詰まったいくつものパッサージュがある。一歩足を踏み込んだ途端にどこかで見覚えのある空間に引き込まれる。商店街やショッピングモールの原型でもあったパッサージュは、フランス語で「道」や「小径」を意味し、複数の通りを接続することを目的に、既存の建築物を改築して設けられた。

迷路といったラビリンス空間に引き込まれる。商店街やショッピングモールの原型でもあったパッサージュは、フランス語で「道」や「小径」を意味し、複数の通りを接続することを目的に、既存の建築物を改築して設けられた。

ガラス屋根に覆われたパッサージュが18世紀末から19世紀にかけてできた背景には、当時のパリの

の道路は縦横の道路が未整備であり、別の通りへの移動が困難かつ狭い道を馬車が往来することで歩行者は不便を強いられていたからである。盛り場付近にある建物の所有者は、建物の間を通り抜ける近道をつくり、店舗を設ければ賃料収入が入ると考え、雨を防ぐガラス屋根、大理石の床と壁、モザイクタイルが敷かれ、左右に店舗が並びアーケード街が誕生した。全盛期には100カ所以上も存在したが、今でもパリには十数カ所のパッサージュが現存する。

「パッサージュ・デ・パノラマ」は1800年につくられ、今では歴史的建造物に指定されている。幅4mの小さなパッサージュ。高いガラス天井からの降り注ぐ光、白黒のタイル、店の看板が調和する。玩具店、アンティーク店、老舗の古書店、雑貨店、菓子専門店、ピストロ、バーの他、杖の専門店、古いホテル・シヨパン、そして人気の高いグレヴァン蠅人形館が不思議と共鳴する。間口は狭いが、中が左右に広いスーパーマーケットのマークスアンドスペンサーもあり、そこには画一的なショッピングモールでは生まれないうきめきがあった。

「パッサージュ・デ・パノラマ」は1800年につくられ、今では歴史的建造物に指定されている。幅4mの小さなパッサージュ。高いガラス天井からの降り注ぐ光、白黒のタイル、店の看板が調和する。玩具店、アンティーク店、老舗の古書店、雑貨店、菓子専門店、ピストロ、バーの他、杖の専門店、古いホテル・シヨパン、そして人気の高いグレヴァン蠅人形館が不思議と共鳴する。間口は狭いが、中が左右に広いスーパーマーケットのマークスアンドスペンサーもあり、そこには画一的なショッピングモールでは生まれないうきめきがあった。

サンマルク通りとモンマルトル大通りを結ぶ延長133m、幅3.2mの街路には、多くの切手店や古書店、アンティーク店が連なる。また老舗の鴨料理店やギョーザバ、フランスの家庭料理店など約60店が入居し、古い店も新しい店も違和感なく交じりあう。パノラマは複数の土地所有者で構成されるにもかかわらず、それぞれが個性あふれるファサードデザインを醸し出し、歩くだけで幸せな気分になれる場所だ。パリが都市整備されていない200年以上前から歩行者向けの抜け道、兼商店街だったパッサージュと比べ、日本の商店街の現状はどうだろうか。

パノラマとの友好提携を調印したのが古屋市の円頓寺商店街である。名古屋駅から徒歩15分の古い歴史を持つ円頓寺商店街は、年々活気を失い衰退が続いていたが、隣接する古い民家や商家の風情ある四間道（しげみち）との共創や、店主や関心を持つ建築家、学者との賑わいづくりに取り組んだ。フリーペーパーの発行やフリーマーケットの開催、空き店舗にはモダンなセンスや意匠を加えたリノベーションを施し、小資本でも出店できる若い飲食経営者達を呼び込んだ。

アーケードを活用したテラス付きのオープンレストランやカフェが増え、そのアーケードも骨組みを残してセンスのあるものに新調された。以前からある老舗洋食店や肉屋、薬局との新旧の合わせた魅力は、まるでパリのパッサージュのようだとの声上がり、パノラマにプレゼンテーションの機会を得て、15年に提携が実現したのである。パリのパッサージュと円頓寺商店街の場づくりからは、地方再生には地域らしい街づくりと若い起業家の創業機会を融合した、居心地の良い日常のわくわく感こそが柱となると確信した。全国で衰退した商店街がパッサージュのようなノスタルジックでモダンな地域の溜まり場、共感の場になることは、そと遠い道ではないように思えた。



街の居場所になった円頓寺商店街